

2023年度 活動報告

特定非営利活動法人NIED・国際理解教育センター

1 事業実施の方針

次に掲げるビジョン、ミッション、バリューに基づき、事業を行った。

<ビジョン>

よりよい未来を、こどももおとなも、ともに学び・ともに創る社会をめざします。

<ミッション>

ビジョン実現のために、「国際理解教育」の実践として、次のことに取り組み続けます。

- ① 社会の課題に気づき、人権・環境・平和を守る価値観や行動力を育みます。
- ② 自分、他者、社会に関わるスキルを培い、社会に対する効力感を育みます。
- ③ 様々な教育現場で、参加型の人権教育・環境教育・平和教育などを広め、またその担い手を養成します。
- ④ 様々な地域やテーマの場で、参加と対話によるコミュニティづくりを進め、またその担い手を養成します。
- ⑤ ミッションに関する調査・研究をし、広くアドボカシー活動を行います。

<バリュー>

【尊厳と信頼】ひとり一人が大切な存在であり、力があると信じること。

【願いと選択】何を目指すか、どう行動するかを問い続けること。

【教育と実践】ファシリテーターであると同時に、学び続ける実践者であること。

※カギ括弧の「国際理解教育」は、一教育分野としての国際理解教育を指すものではなく、ここに掲げたビジョン、ミッション、バリューを実践、推進する活動全体を指すものである。当団体の名称も同義である。

2 2023 年度業務の全体像

(1) ワークショップの提供状況や内容の外観

◇参加の文化を拓げる指標の結果は下表のとおりである。2023 年度は、前年度よりも各指標の数値が増加し、コロナ禍前の 2019 年度と概ね同程度前後となっている。

指標名	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
業務数	32	18	27	27	35
WS提供日数	130	71	99	92	124
WS提供時間	496.0	292.0	396.5	331.0	422.0
WS参加者数	2,056	489	849	790	1,147
延べ参加者数	3,981	1,484	2,207	1,839	2,397
新規業務数	10	3	8	9	11
新規業務率	31%	17%	30%	33%	31%
継続実施数	22	15	19	18	24
指導者研修率	47%	83%	63%	64%	62%

※ 業務数の中には6つの自主プロジェクトを含む。但し、WS 関連指標は自主プロジェクト（内部活動）は除外した。

(2) 扱ったテーマ 対外的なワークショップを行わない自主プロジェクトを除く（母数 34）

◇国際理解系（SDGs、国際交流、多文化共生を含む）が 17 件と最も多く、次いで、参加・まちづくり系が 9 件、人権系が 5 件となっている。

テーマ	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
国際理解系	11 件	8 件	17 件	17 件	17 件
人権系	5 件	4 件	4 件	3 件	5 件
環境系	1 件	1 件	0 件	0 件	0 件
ファシリテーション・参加・まちづくり系	10 件	1 件	3 件	4 件	9 件
全複合	2 件	1 件	1 件	1 件	2 件

(3) 実施した地域 対外的なワークショップを行わない自主プロジェクトを除く（母数 30 業務）

◇愛知県が 13 件と最多で大半を占めている。岐阜県・三重県からの依頼があった。

地域	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
愛知県	18 件	8 件	14 件	13 件	20 件
岐阜・三重県	2 件 [2,0]	0 件 [0,0]	0 件 [0,0]	2 件 [1,1]	3 件 [3,0]
香川・高知県	5 件 [4,1]	1 件 [1,0]	4 件 [4,0]	5 件 [4,0]	2 件 [2,0]
その他遠県等	2 件 長野、茨城	3 件 長野、茨城、山口	3 件 長野、静岡、東京	1 件 静岡	5 件 静岡、石川、茨城、 東京、福岡

(4) 主催者 対外的なワークショップを行わない自主プロジェクトを除く（母数 30 業務）

◇自治体系が 9 件と最も多くなったのが 2023 年度の特徴である。続いて 7 件が、教育団体系（教育委員会、学校）、JICA、NPO（自主事業 3 件を含む）となっている。

主催者	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
教育団体系	9 件	1 件	9 件	7 件	7 件
NPO	7 件	3 件	3 件	2 件	7 件
自治体系	7 件	2 件	4 件	5 件	9 件
JICA	3 件	4 件	4 件	7 件	7 件
その他民間団体	1 件	3 件	1 件	0 件	0 件

(5) ワークショップの時間 対外的なワークショップを行っていない事業を除く

◇12 時間超が 11 件（自主講座 3 件を含む）と最も多く、次いで 3 時間未満が 7 件、3～4 時間と 6.5～12 時間が 6 件などとなっている。

◇提供時間が長い上位 3 位の業務は次のとおりであった。

- ・オルタナティブ・スクールあいち惟の森テーマ・スキル学習 75 時間
- ・JICA 中部 教師海外研修 46.5 時間
- ・JICA 中部 開発教育指導者研修（実践編）45.5 時間

業務あたりの WS 時間	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
3 時間未満	3 件	2 件	6 件	7 件	7 件
3～4 時間	10 件	4 件	7 件	8 件	6 件
4.5～6 時間	9 件	1 件	2 件	3 件	4 件
6.5～12 時間	2 件	1 件	4 件	4 件	6 件
12 時間超	8 件	8 件	5 件	6 件	11 件

※：1 業務の中に種類の異なる研修・講座がある場合は分けて計上した。

(6) 依頼ファシリテーター数、時間（担当）

◇依頼ファシリテーター数（複数回講座でも1人で担う場合は1人として計上）は36人であった。

◇代表の請負率（代表率）は50%であり、研究員請負率が44%と増加した。

◇2023年度現在の研究員がファシリテーターを担った者は7人である。

ファシリテーター		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
代表	伊沢	23	15	23	20	18
研究員	平野	4	1	2	1	1
	伴	4	3			
	久世	3	2	3	1	1
	谷口	1	1		1	
	滝				1	
	川合	1	1	1	1	1
	堀川	1				4
	田口	4	3	3	1	2
	鉄井	5	4	6	2	5
	長野	2	2	2	2	2
	吉岡	1				
佐藤	1		1			
同候補	永吉	2				
	大島	1	1	1	1	1
	夏目		2			
	青野					1
合計		54	36	43	30	36
代表率		43%	42%	53%	67%	50%
研究員請負数		27	17	18	10	16
同上率		50%	47%	42%	33%	44%
研究員補等請負数		2	2	2	2	2
同上率		4%	6%	5%	7%	6%
備考 （複数F依頼）		JICA(3) 刈谷(2) 春日高(2) ポラセン(5) 惟の森(10) 北一社小(2) JICA筑波(2)	JICA(5) 名古屋JC(4) ポラセン(4) 惟の森(10)	JICA中部(3) JICA四国(4) 香川県国際交 流協会(5) 惟の森(6)	JICA中部(2) 中京大学(3) 惟の森(6)	JICA中部(2) 惟の森(7) ICAN(2)

注：自主講座、打合せ会議、市民主体のイベント支援に関わるのファシリテーターは除く。
オンラインによるサブファシリテーターを含む。

3 各ミッションに対する 2023 年度の総括（成果と課題）

① 社会の課題に気づき、人権・環境・平和を守る価値観や行動力を育みます。 担当:川合

2023 年度の事業計画のミッション①に関する総括は次のとおりである。

取り組み名	成果と課題
(a) NIED が提供する講座・研修のねらいへのミッション①の組み込み	◇前項(2)扱ったテーマに示したとおり、NIED が実施する研修・講座のねらいに、ミッション①の要素を組み込み、提供することができた。
(b) ミッション①に関する評価指標づくりと運用	◇NIED が提供する講座・研修が、ミッション①に寄与しているかどうか、総合的系統的に整理・分析するためにまとめた評価指標は、NIEDT講座でふり返りアンケートで行った。

② 自分、他者、社会に関わるスキルを培い、社会に対する効力感を育みます。 担当:川合

◇NIED が考える「自分、他者、社会に関わるスキル」とは、次のようなものである。



取り組み名	成果と課題
(a) NIED が提供する講座・研修のねらいへのミッション②の組み込み	◇前項(2)扱ったテーマに示したとおり、NIED が実施する研修・講座のねらいに、ミッション②の要素を組み込み、提供することができた。
(b) ミッション②に関する評価指標づくりと運用	◇NIED が提供する講座・研修が、ミッション①に寄与しているかどうか、総合的系統的に整理・分析するためにまとめた評価指標は、NIEDT講座でふり返りアンケートで行った。

③ 様々な教育現場で、参加型の人権教育・環境教育・平和教育などを広め、またその担い手を養成します。

(3) ミッション③に関する NIED の自主的取り組み

◇ミッション③に関する NIED の自主的取り組みについての実績・成果及び課題は次のとおり。

(1) 学習者に直接、基礎的なテーマ等を提供する講座 の 2023 年度実績

- ◇現場…7 件（昨年度 6 件）
- ◇テーマ…開発・国際理解、多文化共生、人権、チームビルディング、複合
- ◇参加者数…399 人（昨年度 186 人）、 ◇延べ 866 人（昨年度 669 人）
- ◇提供時間…147.0 時間（昨年度 110.0 時間）

(2) 担い手を養成する研修 の 2023 年度実績

- ◇現場…16 件（昨年度 9 件）
- ◇テーマ…開発・国際理解、人権、多文化共生、1 ファシリテーション、組織経営など
- ◇参加者数…451 人（昨年度 375 人）、 ◇延べ 1,027 人（昨年度 831 人）
- ◇提供時間…186.5 時間（昨年度 155 時間）

a. 参加型で世界は変わる～NIED国際理解教育講座テーマ編 2023 担当:久世

区分	実績・成果	課題
<p>学習者に直接、基礎的なテーマ等を提供する講座 ①T講座</p>	<p>◇5 回、25 人、延べ 35 人の参加者を得て、国際理解教育の様々なテーマ(子どもの権利、セルフエスティーム、社会参画、環境)について講座を行い、テーマごとに参加者と共に学びを深めることができた。</p> <p>◇うち NIED メンバーは 11 人、延べ 20 人が参加し NIED 人材の教育力向上に資することができた。</p> <p>◇アンケートから見ると総平均で 4.13 を記録しており効果があったと考えられる。特に「自分とのつながりについて理解は深まったか」という問いに対して 4.14 という数字となっているのは、NIED の講座らしさ、良さが出たと考える。また、講座の参加度に関する質問での数値がより高くなっている。その場におけるファシリテーションがよかったと考える。特に「お互いを尊重し合い、持ち味を活かし合える場だったか」が 4.44 という数字を出している点は評価したい。</p>	<p>◆参加者が平均 7.0 人であり多いとはいえない。また、その参加者の2/3 が NIED メンバーであった。</p> <p>◆アンケートでは、プログラムについての振り返りの数値が、4以上は概ねあるとはいえるものの、比較的低くなっているのは反省材料と捉える。特に「社会に対する影響について理解は深まったか」「社会に対してよりよい変化を生み出せるという気持ちになったか」という質問は低くなっており、課題の社会における重要度、効力感にはもう少し考えてもらえるとよいと考える。</p>

<p>その担い手を 養成する研修 ②T講座プロジェクト</p>	<p>◇コロナ禍のもと2年間の空白後、2022年度は2回のみで開催だったが、今回は5人のファシリテーター立候補者を受け、5回もの講座を開催できた。</p> <p>◇5月に担当理事、各回の担当ファシリテーター、担当研究員10人でプロジェクトチームを立ち上げた。プログラム・メイキングの基礎をキックオフ・ミーティングで行い、その後担当ファシリテーターは担当研究員と共に複数回のミーティングを重ねてプログラムを練り上げた。本番1ヶ月前にはプログラム検討寄り合いを行い、プロジェクトメンバーおよび寄り合い参加者からのアドバイスを受けながらさらにプログラムの練り込みを行った。当日は6時間に渡るワークショップを行い、外部参加者に対してファシリテーションを実際に行うという経験値を得ることが出来た。また講座終了後にすぐに振り返り会を行い、「よかったところ」「さらに良くなるための改善点」を中心に話し合いを行い、スキルアップを行うことができた。</p> <p>◇T講座全体を通して実際にファシリテーターとして経験値を増したメンバーのみならず、講座・検討寄り合いに参加したNIEDメンバー全員の教育力向上を図ることができた。</p> <p>◇SEラボ、公共の両プロジェクトとコラボすることができ、T講座の有効活用をしてもらえた。</p> <p>◇評価指標の検討・試験運用という点では、単独回における10名以下の参加者の場合は、あまり適切な評価は得られないと感じた。内容面はよいと考える。</p>	<p>◆今回は5人もの立候補があり、担当研究員の協力を得た。多くのメンバーの参加を維持していきたい。</p> <p>◆結果的にプロジェクトメンバーの寄り合い、講座当日の参加が少なかった。それぞれ諸事情があり仕方がない側面もあるが、自分の担当以外の回に参加することも意義があるので、プロジェクトとして各回を盛り上げていきたい。</p> <p>◆NIEDのプログラム、ファシリテーションをよりよく提供しつづけるために、T講座のプログラムのあり方、メイキング体制について、引き続き検討していく必要がある。</p>
<p>その担い手を 養成する研修 ③NIED寄合T講座系</p>	<p>◇5回行われたT講座と連動し、各講座の1ヶ月前にT講座検討寄り合いを行った。講座の担当ファシリテーターが作成したプログラムを寄り合い参加者全員で検討したり、実際に予定されているアクティビティを経験したりしながら、研鑽に励むことができた。</p>	<p>◆新入会メンバーも増えている。より積極的にT講座検討寄り合いをアピールし、もっと多くの人数で検討できるようにしていく。</p> <p>◆NIEDの人材育成のためにも、T講座とそれに伴う寄り合いを継続していく。</p>

b. 参加型で世界は変わる～NIED国際理解教育講座ファシリテーター編 担当:伊沢

区分	実績・成果	課題
その担い手を養成する研修F講座	<p>(実績)</p> <p>◇前年度不開催だったため今年度は4月と3月の2回、各3回シリーズで開催。4月は、延べ36名(会員6名、会員外9名(高校生含))、3回コンプリートは6名、3月は、延べ27名(会員8名、会員外6名)、3回コンプリートは4名であった。</p> <p>(成果)</p> <p>◇1年に2回開催したが合計で63名の参加があった。香川、島根、三重、岐阜、静岡など他県からの参加もありニーズの高さを感じた。</p> <p>◇F講座への参加がきっかけとなりNIEDに入会した人がいた。</p> <p>◇ちらしを作成し、紙媒体とSNSなどで多方面に広報した。広報期間に余裕を持った。</p>	<p>◆参加者の声を聞く限り、年度末の3月より、年度始めの4月の方が参加しやすいとのこと。次回開催時期と間隔については検討が必要。</p> <p>◆これまで代表が担当してきたF講座だが、NIEDNEXTとしてのF講座の在り方について検討必要。</p>

c. オルタナティブ・スクールあいち惟の森 テーマ・スキル学習プロジェクト 担当:伊沢

区分	実績・成果	課題
学習者に直接、基礎的なテーマ等を提供する講座	<p>(実績)</p> <p>◇低学年11名、高学年11名、中学部6名に対して、低学年と高学年はそれぞれ年間15回(5テーマ各回/各回は3コマ)、中学部は特別に1回(2コマ)のテーマ・スキル学習を提供した。</p> <p>◇低学年は、環境、自分と他者に関わる力、人権、共生・平和、みんなに関わる力の5テーマ、高学年は、世界とのつながり、まちづくり、人権、環境、社会参画の5テーマ、中学部はファシリテーションをテーマで行った。</p> <p>◇ファシリテーターは、低学年は、青野(1)鉄井(8)、長野(6)、高学年は、田口(3)、伊沢(7)、平野(3)、大島(2)、中学部は伊沢(1)であった。</p> <p>(成果)</p> <p>◇これまで各担当Fに任されていたプログラム作りを、今年は全て伊沢が担当することにしたため、各担当Fの準備の負担減にもつながった。</p> <p>◇1人が全プログラムを作成したことで、プログラムの流れやテーマどうしのつながりに統一感ができた。</p> <p>◇発達段階や経験知に応じた「気づきのアクティビティ」を大切にすることをプログラム作りでは意識した。今後まとめる予定である「テーマ別・学齢期別テーマ・スキルプログラム集」のイメージが持てた。</p> <p>◇子どもたちは「楽しく学ぶことから始まり、学ぶことが楽しくなる」。回数と年を重ねる毎に子どもたちは参加型にも慣れ、経験がつながり、「テーマ・スキルが好き」と言う子どもたちも増えてきた。</p> <p>◇「考える」「伝える」「聞く」「協力する」などのスキルが育成され、「民主的なスキル」「市民性」が生まれ出していると感じる場面や人が増えてきた。</p> <p>◇毎回子どもたちに配付するレジュメを作成して配付している。テーマ、ねらい、プログラム、必要資料などが書かれており、その日に取組むことが意識化される効果があった。</p> <p>◇全校ミーティングなどでファシリテーターになる中学生に向けて、「ファシリテーションと参加型」について学ぶ機会を作ることができた。</p>	<p>◆惟の森の日常に関わっていないファシリテーターだが、日常の人間関係やトラブルがテーマ・スキルの参加の態度に影響を及ぼし、予定通りのプログラムを提供できないことがある問題。→担任スタッフがファシリテーターを引き継いでいくことが必要。</p>

d. IVY(アイビー) 制度 担当:川合

…NIEDメンバーが他のNIEDファシリテーターが実施する研修・講座等と同行し、実際にワークショップやファシリテートを見て学ぶ機会を作るもの(交通費自己負担、報告書要提出)。

区分	実績・成果	課題
その担い手を養成する研修 IVY 制度	◇NIED 徒然で、IVY できる可能性のある研修・講座の周知を行ったが、2023 年度の利用は、1 件 2 人(JICA 開発教育指導者研修(実践編) / 夏目・古屋であった。	◆会員それぞれの生活の優先順位があるが、NIED 内の人材育成という観点から、可能性のある人に個別にアピールしていく必要があるかもしれない。

e. NIEDファシリテーター制度(研究員、研究員候補、T講座F経験者) 担当:川合

区分	実績・成果	課題
その担い手を養成する研修 F制度	◇受託・派遣を担った代表以外のファシは次のとおりであった。 ① T講座F経験者… 0 人 ② 研究員候補…1 人(大島) ③ 研究員…4 人(久世、鉄井、長野、堀川) ◇代表以外がファシを担う割合が〇%(日数ベース)であった。 ◇ファシリテーター制度でステップアップしたファシは以下のとおりであった。 ① T講座F経験者… 0 人(昨年度 2 人) ② 研究員候補…1 人(青野)(昨年度 0 人)	◆NIED ビジョン実現に向けて、より多くの研究員を育てるミッションを進めるため、NIED ファシリテーター制度におけるステップアップ者を増やせるよう検討、実施していく必要がある。

④ 様々な地域やテーマの場で、参加と対話によるコミュニティづくりを進め、またその担い手を養成します。

(1) NIEDが直接コミュニティづくりをする事業の 2023 年度実績

◇地域・テーマの場…5 件 刈谷市×2、愛知県、AIA、名古屋 NGO センター (昨年度 5 件)
◇参加者数…121 人 (昨年度 105 人)、 ◇延べ 281 人 (昨年度 179 人)
◇提供時間…50.0 時間 (昨年度 40.5 時間)

(2) その担い手を育成する研修の 2023 年度実績

◇地域・テーマの場…4 件 : 刈谷市、岐阜市社協、瀬戸市、海津市社協 (昨年度 4 件)
◇テーマ…多文化共生、ボランティア
◇参加者数…122 人 (昨年度 118 人)、 ◇延べ 158 人 (昨年度 145 人)
◇提供時間…18.5 時間 (昨年度 19.5 時間)

⑤ ミッションに関する調査・研究をし、広くアドボカシー活動を行います。

(1) ミッション⑤に関する NIED の自主的取り組みの成果と課題

◇ミッション⑤に関する NIED の自主的取り組みに関する成果と課題は次のとおり。

e. わたし・あなた・みんなプロジェクト = ミッション②の自分に関わる力に関する研究・発信 担当:滝

区分	実績・成果	課題
①SE ラボ 寄り合い	◇プロジェクト内部での会合(寄り合い)を5月、8月、12月と3回開催できた。	<p>◆T 講座に向けたプログラムの確認と、実施後のふり返りに終始し、会員に向けて開かれた寄り合いという形での活動はできなかった。</p> <p>◆内部だけの会合としても、もう少し回数を増やせるとよかった。</p> <p>◇2024 年度以降は、担当理事を置いて単独のプロジェクトとしての「SE ラボ寄り合い」は開催せず、特に「わたし、あなた、みんな」の「みんな」に特化して、20 周年PJの一環として寄り合いを開催することとする。</p> <p>◇一方、これまでの「SE ラボ寄り合い」は、一般の「この指とまれ」的な寄り合いとして不定期に開催するとして発展的な解消をする。</p>
②「わたし、みんな、あなた」に関する研究・発信	◇今年度のプロジェクトとしての研究テーマをプログラム化し、T 講座で実施した。	<p>◆T 講座で提供したプログラムは、今年度の研究テーマである「わたし・あなた・みんな」と「直接的・構造的・文化的の3段階の暴力」との関連に気づくといった内容のプログラムだったが、分かりづらい内容となってしまった。</p> <p>◇2024 年度以降は、「わたし・あなた・みんな」の「みんな」の部分を意識し、「時事問題とNIED」というタイトルで20 周年PJの一環として、「市民の政治参加」をテーマに寄り合いを開催する。</p> <p>◇「時事問題とNIED」は、特に20 周年記念寄り合いで参加者の多くが語った「各々のわたらしさが受け入れられる NIED」の雰囲気そのままに、「わたし・あなた」から「みんな」へとつながっていく部分の研究の場であることを意識して進める。</p>

f. NIED本出版プロジェクト = ミッション②③に関する研究・発信 担当:田口

実績・成果	課題
<p>◇「よりよい未来をともに学び・ともに創るファシリテーターのための参加型アクティビティ集『コミュニケーション編』-他者に関わる力を育もう-(初版515冊/2018年3月出版、第2版500冊増版/2022年3月)について、①継続して普及に取り組み77冊を頒布することができた。②開発教育協会に委託頒布をした。</p> <p>◇2冊目の本「よりよい未来をともに学び・ともに創るファシリテーターのための参加型アクティビティ集『人権編』-身近な人権を考える-(仮称)」の作成に取り組んでいる。人権本は身近なテーマを取り扱う予定で、多様性、セルフエスティーム、ジェンダーなどのアクティビティの執筆を進めている。</p> <p>◇「人権編」作成のために、東海地域 NGO 活動助成金(20万円)の採択を受けることができ、2024年3月完成予定だったが、未完成となっている。</p> <p>◇プロジェクトメンバーが7人で月に2回程度ミーティングを開催した。</p>	<p>◆コミュニケーション編残り残数をいかに頒布するか。</p> <p>◆人権本の完成が遅れに遅れている。残り5%程度の執筆が残っていて、レイアウトも残っている。</p>

g. 公共プロジェクト =ミッション①②③に関する研究・発信 **担当:谷口・吉岡**

実績・成果	課題
<p>◇2022年4月から高等学校の公民科の新教科となった「公共」の授業で使える参加型の授業プログラムの作成を進めている。2023年度は、ほぼ月一回のペースでZoomでの寄り合いを開催した。</p> <p>◇10テーマ程度のプログラムの開発が進み、実践をしてプログラムを見直す段階のものがほとんどとなった。</p> <p>◇昨年度高校や大学で実施した成果を踏まえて、「幸福」「人権」「私たちのお金と市民生活」のプログラムの見直しを終えた。</p> <p>◇光ヶ丘女子高等学校、愛知教育大学での実践は今年度も継続した。</p> <p>◇作成した授業案をどのようにしてできるだけ多くの先生方の手元に届けるか、についての話し合いをし、NIEDホームページへの掲載を決めた。それ以外の方法についても話し合いを続けている。</p> <p>◇完成したプログラムは、NIEDホームページに掲載し、感想や実践報告を集め、それらを踏まえて修正をしていく予定である。</p> <p>◇公共プロジェクトでT講座にて1つの講座を担当し、「社会参画」をテーマに講座を行った。実践を振り返り、内容を授業で使いやすくなるための見直しを始めた。</p>	<p>◆プログラムの見直しはとても時間がかかり進みが遅い。NIEDホームページへの掲載が決まったので、速度を上げる。(いつまでに作るかという期限を決めるとよいかもしいない。)</p> <p>◆ホームページ掲載以外の発表の方法も引き続き考える。</p> <p>◆実践の機会をもっと増やす。</p> <p>◆高等学校の指導要領が変わったので、公共の授業を含めアクティブラーニングが積極的に導入されるような働きかけを色々な形とする。</p>

h. 書籍活々(いきいき)プロジェクト =全ミッションに関わる調査・研究 **担当:伴**

実績・成果	課題
<p>◇NIED書籍の貸出・返却実績は、3名から4回(7冊)だった。</p> <p>◇NIEDメンバーのアプリ活用入力協力で、貸出状況をon timeで管理把握できるようになった。</p> <p>◇プロジェクトメンバーミーティングを4回開催した。3回はZoomで、1回は事務所で行い、書籍本棚の整頓を行った。</p>	<p>◆NIEDメンバーへの蔵書情報の発信をする必要がある。</p>

i. NIED情報共有システム =全ミッションに関わる調査・研究 **担当:川合**

区分	実績・成果	課題
実績成果の共有	<p>◇実績成果に関わる情報ボックス「NIED-ShareBox-2」フォルダに、当該年度の自主講座の記録、あいちの森のプログラムと教材を整理・格納した。</p> <p>◇受託業務への派遣されるNIEDファシリテーターのニーズに応じて、過去のプログラムや教材を提供した。</p>	<p>◆ウェブサイトの抜本更新に伴い、実績成果の共有のシステムを再構築して周知を図る。</p>
一般情報共有・交換	<p>◇会員メーリングリストの年間投稿数は291件[前年度216件]であった。</p> <p>◇NIED徒然の発行は、予定回数の12回行うことができた。</p> <p>◇「NIED-ShareBox-1」は、一般的なウェブからもアクセスできるようなシステムの周知を図った。</p>	<p>◆引き続き、定期的にNIED徒然を発行し、内容の充実を図る。</p>

k. ホームページ・広報プロジェクト =全ミッションに関わる発信 **担当:川合**

実績・成果	課題
<p>◇電子媒体による広報活動として、NIED の活動実績等を NIED ブログに 13 件[前年度 7 件]投稿した。</p> <p>◇NIED フェイスブックページは 1,099 人がフォローし、前年同期より 27 人増加に留まった。投稿数 19 件 [前年度 9 件]投稿した。</p>	<p>◆ブログ、フェイスブックへの投稿数が増加したが、人権啓発キャラバン、T講座の広報量が増えたことが主な要因である。より幅広く NIED の活動を伝えるために、ウェブサイトの抜本更新に伴い、積極的に活動内容を投稿していくことが望まれる。</p> <p>◆インスタグラムによる情報発信についても検討する。</p>

l. 20 周年記念プロジェクト =全ミッションに関わる発信 **担当:鉄井**

実績・成果	課題
<p>◇対面・オンラインで 4 回、のべ 28 人の会員が参加。</p> <p>◇会員の NIED に対する想いを共有する機会になったほか、会員歴長ささまざまなメンバーの近況を共有することで、会員間交流の機会をつくることができた。</p> <p>◇対面で会い、話すことの重要性を確認し、会員として関わることの意義を再認識する機会となった。</p> <p>◇プロジェクトメンバーの打合せは 3 回。寄り合いを経て、これまでどのプロジェクトにも参加していなかった会員 3 人が新たにプロジェクトメンバーになり、会員としての活動の幅を広げることにつながった。</p> <p>◇寄り合いで集まった意見をもとに、24 年度からは「寄り合いプロジェクト」として、定期的な寄り合い開催をコーディネートするプロジェクトへと発展する。</p>	<p>◆20 周年を祝うイベントの実施には至らなかった。</p> <p>◆寄り合いで寄せられた「これからの NIED」を具体的な活動につなげていくことが必要。その際に、多くの会員の参画を得つつ、持続可能な活動展開を考える必要がある。</p>

⑥ その他 活動の基盤となる活動を行います。

m. 会員コミュニケーション =全ミッションに関わる会員交流 **担当:薄井**

実績・成果	課題
<p>◇会員コミュニケーションの一環で、新規会員の入会+その方々の自己紹介に合わせて、既存会員の自己紹介を ML 上で更新などしてもらった。</p> <p>◇20 周年プロジェクトにご協力頂き、会員の持つ NIED への想いや、自身に関しての想いを整理してもらえた。</p>	<p>◇会員間のコミュニケーション醸成の場の提供ができていない。具体的には、会員個人で自発的な寄り合いを開催できることを周知していく必要がある。</p>

4 事業の実施に関する事項（特定非営利活動に係る事業）

● A. 参加・対話・体験型の研修・講座などに対する相談・ファシリテーター派遣事業

(1) 事業内容

自治体、学校、民間団体などからの依頼により、国際理解、人権、環境などをテーマとした参加・対話・体験型講座・研修にファシリテーターの派遣を行った。

(2) 開催概要

2023年度は、合計20事業（前年度：17事業）で、研修等の提供時間は112.5時間（前年度：89.0時間）あった。個別の事業の依頼主／主催、事業名／研修テーマ、実施日時、場所、対象、参加者数、提供時間、ファシリテーター・スタッフなどの詳細は巻末一覧表、収入・支出の内訳は収支計算書類を参照のこと。

(3) 延べ参加者数 938人（前年度：692人）

(4) 収入額 1,859,582円（昨年度：1,593,257円）謝金、委託費、交通費等

(5) 支出額 1,056,412円（昨年度：905,705円）人件費540,052円、謝金220,780円、旅費交通費295,290円、雑費290円

● B. 基礎研修およびファシリテーター養成などの自主講座事業

(1) 事業内容

主に、人権・環境など国際理解教育の基本テーマを扱う講座を自主事業として行った。

(2) 開催概要

2023年度は、合計3事業（前年度：2事業）で、研修等の提供時間は66時間（前年度：18時間）であった。

(3) 延べ参加者数 98人（前年度：15人）

(4) 収入額 479,000円（昨年度：39,500円）参加費

(5) 支出額 301,597円（昨年度：85,952円）人件費156,484円、謝金123,000円、その他3,393円

● C. 環境や人権などを視点としたまちづくりのプロセス企画・実施事業

(1) 事業内容

地方自治体などにおける環境や人権を視点としたまちづくりのプロセス・プログラムの企画立案、ファシリテーターとしての支援、記録・報告書作成までの一連の業務を行った。

(2) 開催概要

2023年度は、合計5事業（前年度：3事業）、研修等の提供時間は171.5時間（前年度：75.0時間）のワークショップを行った。個別詳細は巻末一覧表および収支計算書類参照のこと。

(3) 延べ参加者数 957人（前年度：440人）

(4) 収入額 20,039,846円（昨年度：17,781,436円）委託費

(5) 支出額 16,979,485円（昨年度：15,924,293円）人件費6,071,686円、謝金・委託費8,444,400円、旅費交通費831,823円、通信運搬費58,176円、印刷製本費1,423,884円、消耗品128,036円、雑費21,480円

● D. 目的を実現するために必要な調査・研究・情報提供事業

(1) 事業内容

国際理解教育・開発教育を推進するため、「必要な調査・研究を行う」、「PRする」ことを、研究会方式などにより行った。

(2) 開催概要

2023年度は、6つの事業（前年度：5事業）、研修等の提供時間は2.0時間（前年度：120.0時間）のワークショップなどを行った。個別詳細は巻末一覧表および収支計算書類参照のこと。

(3) 延べ参加者数 2人（前年度：431人）

(4) 収入額 368,900円（昨年度：112,600円）書籍頒布代

(5) 支出額 1,819,982円（昨年度：471,013円）人件費 107,133円、謝金・委託費 1,671,000円、旅費交通費 35,928円、通信運搬費 2,500円、雑費 5,921円

5 会議の開催に関する事項

(1) 総会 2023年度定期総会

日時 2023年6月10日（土）13:30～16:00

場所 名古屋NGOセンター共用スペース&オンライン

出席者数 正会員総数39人中、出席20人（うちオンライン5人）、委任17人、合計37人

- 議題
- (1) 2022年度事業活動報告（案）及び決算（案）の承認に関する件-----承認
 - (2) 2023年度事業計画（案）及び予算（案）の承認に関する件-----承認
 - (3) 定款の変更に関する件-----承認
 - (4) 役員を選任に関する件-----承認

(2) 理事会 2023年度は、下表のとおり5回開催した。

回	日時	議題	場所	出席
1	4月22日（土） 14:00～17:00	(1) 2021年度事業報告案について (2) 2022年度事業計画案について	NIED事務所 オンライン	9人
2	5月21日（土） 13:00～17:00	(1) 2021年度事業報告案について (2) 2022年度事業計画案について (3) 総会の開催方法について	NIED事務所 オンライン	10人
3	6月10日（土） 16:00～16:30	(1) 役員役割分担について	NIED事務所 オンライン	9人
4	10月2日（月） 19:00～21:00	(1) 各プロジェクト・事業の進捗状況について (2) NIED・NEXTについて	オンライン	7人
5	12月28日（水） 13:30～17:30	(1) 各プロジェクトの進捗状況について (2) 20周年記念事業について (3) 次年度の事業について (4) NIED・NEXTについて	NIED事務所 オンライン	9人
6	3月11日（土） 15:00～17:30	(1) 各プロジェクトの進捗状況と課題について (2) NIED・NEXTについて (3) ウェブサイトのリニューアルについて (4) 20周年記念事業について	NIED事務所 オンライン	9人